

N8503-43/44/49 ディスクアレイコントローラ

管理ソフトウェア インストール手順書

はじめに

このたびは、弊社製品をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

このインストール手順書では、N8503-43/44/49 ディスクアレイコントローラに関連する下記管理ソフトウェアのインストール、アップデート手順について説明します。

- ESMPRO/ServerManager、ServerAgent
- Global Array Manager
- Array Recovery Tool
- 自動クリーンアップツール

本手順書によるインストール作業を始める前に、必ずEXPRESSBUILDER CD-ROM媒体に明記されたバージョンをご確認願います。

本インストール手順書で説明するソフトウェアは、以下の製品に対応しています。

なお、とくに記述のない限り、次の省略形式を使用します。

| 省略形式 | 製品名 |
|----------------|---|
| Windows NT 4.0 | Microsoft® Windows NT® Server 4.0 Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0 Microsoft® Windows NT® Server 4.0 Enterprise Edition |
| TSE | Microsoft® Windows NT® Server 4.0 Terminal Server Edition |
| SBS | Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5 |
| Windows 2000 | Microsoft® Windows® 2000 Professional Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server |

Microsoft、Windows NT、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mylex は米国 Mylex Corporation の登録商標です。

ESMPRO® は、日本電気株式会社の登録商標です。

EXPRESSBUILDER は、日本電気株式会社の商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat は、Adobe System Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

目次

| | | |
|------------|--|-----------|
| 第1章 | Global Array Managerのインストール | 5 |
| 1.1 | Global Array Managerの新規インストール..... | 5 |
| 1.2 | Global Array Managerのアップデート..... | 6 |
| 第2章 | ESMPRO/ServerManager、ServerAgentのアップデート | 7 |
| 2.1 | ESMPRO/ServerManagerのインストールとアップデート..... | 8 |
| 2.2 | ESMPRO/ServerAgentのインストールとアップデート..... | 9 |
| 第3章 | Array Recovery Toolのアップデート | 10 |
| 3.1 | Array Recovery Toolアップデート前の確認..... | 10 |
| 3.2 | Array Recovery Toolのアップデート..... | 11 |
| 第4章 | 自動クリーンアップツールのインストール | 12 |
| 4.1 | インストールの前に..... | 12 |
| 4.1.1 | 動作環境..... | 12 |
| 4.2 | セットアップ..... | 13 |
| 4.2.1 | インストール..... | 13 |
| 4.2.2 | 環境設定..... | 14 |
| 4.3 | アンインストール..... | 16 |
| 4.3.1 | 自動クリーンアップツールのファイル削除..... | 16 |
| 4.3.2 | 環境設定の解除..... | 16 |
| 4.4 | 運用と保守..... | 17 |
| 4.4.1 | 運用手順..... | 17 |
| 4.4.2 | 保守手順..... | 17 |
| 4.5 | 解説..... | 18 |
| 第5章 | 注意事項 | 20 |

第1章 Global Array Managerのインストール

本章では、Windows NT/Windows 2000 版の Global Array Manager のインストール手順について説明します。Netware 版については EXPRESSBUILDER に添付された説明書をご覧ください。

N8503-43/44/49 ディスクアレイコントローラを制御する Global Array Manager は動作する OS によって以下のバージョンを使いわけてください。

Windows NT 4.0 : バージョン 2.20 (gamdrv.sys は 2.20-21)

Windows 2000 : バージョン 3.04

なお、バージョン 3.04 の Global Array Manager をインストールする場合は、ESMPRO や Array Recovery Tool のアップデートが必要な場合があります。後続の ESMPRO/ServerManager 、ServerAgent のアップデート手順、Array Recovery Tool のアップデート手順を参照してください。

1.1 Global Array Manager の新規インストール

システムに Global Array Manager がインストールされていない場合は本体装置に添付されている EXPRESSBUILDER のバージョンによって、以下の記述に従って Global Array Manager をインストールしてください。

| 使用する OS | EXPRESSBUILDER のバージョン | インストール方法 |
|--------------------------------|---|---|
| Windows NT 4.0 Windows 2000 | Express5800/100 シリーズ 2.061 -N と 2.060 -N 以前 (注 1) Express5800/600 シリーズ 2.018 -S (注 1) | 本 ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM を使って、インストールしてください。EXPRESSBUILDER を使ったシームレスインストール、EXPRESSBUILDER のメニューからのインストール、ESMPRO のインストール連携によるインストールはしないでください。 |
| | Express5800/100 シリーズ 2.061 -N と 2.062 -N 以降 (注 1) Express5800/600 シリーズ 2.019 -S 以降 (注 1) | EXPRESSBUILDER を使って Global Array Manager をインストールしてください。 |

注 1) : 任意のアルファベットが入ります。 : a または b が入ります。 : c 以降のアルファベットが入ります。

なお、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM を使用して Global Array Manager をインストールする場合は、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM の「JPNDOC」にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager ユーザーズマニュアル」を参照してください。EXPRESSBUILDER を使用して Global Array Manager をインストールする場合は、本体装置に添付されるユーザーズガイドまたは EXPRESSBUILDER 内のオンラインドキュメントを参照してください。

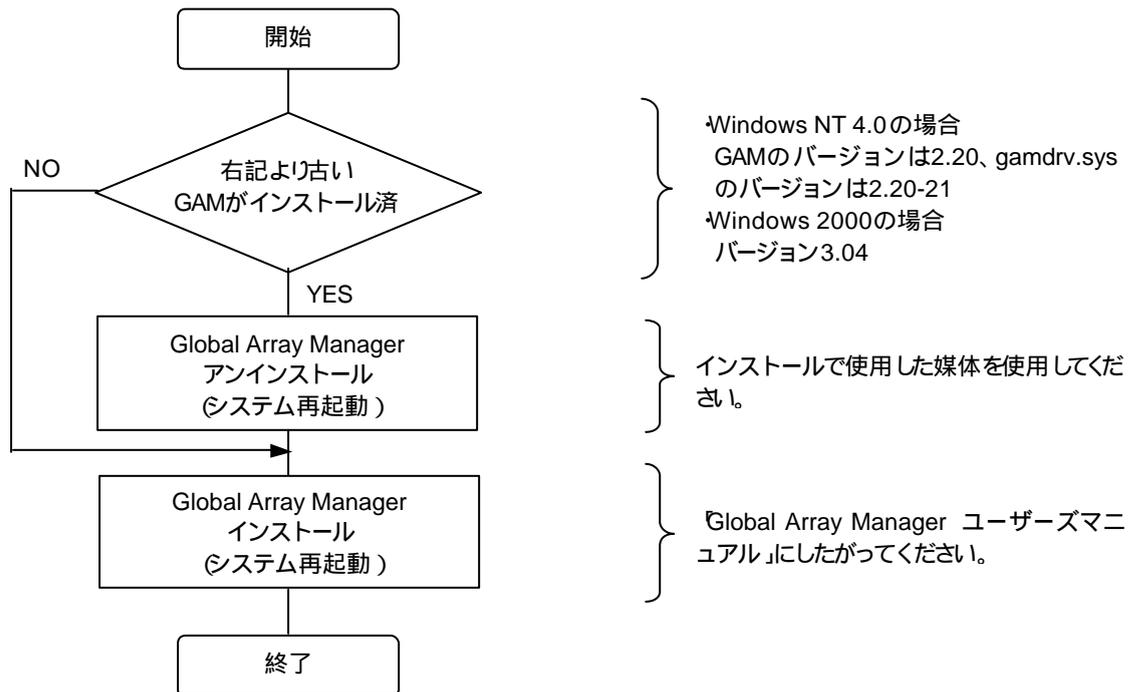
1.2 Global Array Manager のアップデート

システムにすでに Global Array Manager がインストール済の場合はそのバージョンを確認してください。前記のバージョンと異なる場合は、一旦、その Global Array Manager のアンインストールを行ってください。その後、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM を使って、インストールを行ってください。インストールの手順は、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM の「JPNDOC」にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager ユーザーズマニュアル」を参照してください。



- インストール済の Global Array Manager のバージョンは、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で表示されるインストール済のソフトウェアの一覧で確認できます。
バージョン 2.20 についてはシステム起動ドライブの「winnt\system32\drivers\gamdrv.sys」のファイルのプロパティでファイルバージョンも確認してください。

Global Array Manager のアップデート手順を以下に示します。



第2章 ESMPRO/ServerManager、ServerAgentのアップデート

本章では、ESMPRO/ServerManager、ServerAgentそれぞれのアップデート手順について説明します。

ESMPRO/ServerManager、ServerAgentのアップデートは、GAM 3.04(使用 OS が Windows 2000)を使用する場合のみ必要です。GAM2.20(使用 OS が Windows NT 4.0)を使用する場合は必要ありません。

GAM3.04を使用する場合、EXPRESSBUILDERのバージョンによりGAM 3.04の対応有無を判断します。下表を参照して、GAM 3.04に未対応のEXPRESSBUILDERを使用する場合、手順に従いアップデートを行ってください。

ESMPRO/ServerManager

| 使用する OS | EXPRESSBUILDER のバージョン | GAM 3.04 対応 |
|-------------|--|-------------------|
| 動作対象 OS すべて | Express5800/100 シリーズ 2.060 -N 以前 (注 1) | 未対応 (アップデートが必要です) |
| | Express5800/600 シリーズ 2.017 -S 以前 (注 1) | |
| | Express5800/100 シリーズ 2.061 -N 以降 (注 1) | 対応済 |
| | Express5800/600 シリーズ 2.018 -S 以降 (注 1) | |

ESMPRO/ServerAgent

| 使用する OS | EXPRESSBUILDER のバージョン | GAM 3.04 対応 |
|--------------|--|-------------------|
| Windows 2000 | Express5800/100 シリーズ 2.060 -N 以前 (注 1) | 未対応 (アップデートが必要です) |
| | Express5800/600 シリーズ 2.017 -S 以前 (注 1) | |
| | Express5800/100 シリーズ 2.061 -N 以降 (注 1) | 対応済 |
| | Express5800/600 シリーズ 2.018 -S 以降 (注 1) | |

注1) :任意のアルファベットが入ります

2.1 ESMPRO/ServerManager のインストールとアップデート

ESMPRO/ServerManager は、監視対象サーバ、もしくは監視対象サーバを管理する管理 PC のどちらにでもインストールできます。監視対象の Express サーバ、もしくは管理 PC で以下のインストール、アップデート作業を行ってください。

ESMPRO/ServerManager のインストール

ESMPRO/ServerManager がインストールされていない場合、基本処理装置に添付されている EXPRESSBUILDER の CD-ROM で ESMPRO/ServerManager をインストールしてください。

ESMPRO/ServerManager は、EXPRESSBUILDER の「マスターコントロールメニュー」で「ESMPRO」を選択し、表示されたメニューから使用する OS に対応する「ESMPRO/ServerManager」を選択するとインストールできます。

インストールに関する詳細は、本体装置に添付の「ユーザズガイド」もしくは、オンラインドキュメントの「ESMPRO/ServerManager インストールガイド」を参照してください。

ESMPRO/ServerManager のアップデート

アップデートを実行する前に以下の点を確認してください。

- Express サーバ、もしくは管理 PC に ESMPRO/ServerManager Ver3.7、3.8 がインストールされていること
- 管理者権限を持つユーザ(Administrator)でログオンしていること

以下の手順でアップデートを行ってください。

1. CD-ROM ドライブに、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM をセットしてください。
2. [スタート] [ファイル名を指定して実行(R)] を選択してください。[ファイル名を指定して実行]ダイアログが開いたら、[名前(Q)]に次のように入力して、[OK]ボタンを押してください（説明では CD-ROM が D ドライブであると仮定して説明します）。

D:¥JPN¥ESMSM¥setup.exe

3. アップデートプログラムが起動しますので、画面の指示に従って[次へ]ボタンを押してください。
アップデートが終了すると、システムの再起動を促すダイアログが表示されます。[終了]ボタンを押して setup.exe を終了してください。setup.exe の終了後、システムを再起動してください。
4. システムが再起動されたら、アップデートは完了です。

2.2 ESMPRO/ServerAgent のインストールとアップデート

ESMPRO/ServerAgentは監視対象の Express サーバにインストールします。監視対象の Express サーバで以下の作業を行ってください。

ESMPRO/ServerAgent のインストール

ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合、基本処理装置に添付されている EXPRESSBUILDER の CD-ROM で ESMPRO/ServerAgent をインストールしてください。

ESMPRO/ServerAgent は、EXPRESSBUILDER の「マスターコントロールメニュー」で「ESMPRO」を選択し、表示されたメニューで「ESMPRO/ServerAgent」を選択するとインストールできます。

インストールに関する詳細は、本体装置に添付の「ユーザズガイド」もしくは、オンラインドキュメントの「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド」を参照してください。

ESMPRO/ServerAgent のアップデート

アップデートを実行する前に以下の点を確認してください。

- Express サーバに ESMPRO/ServerAgent Ver3.7、3.8 がインストールされていること
- 管理者権限を持つユーザ(Administrator)でログオンしていること
- 「コントロールパネル」を終了していること
- Global Array Manager がインストールされていること



ESMPRO/ServerAgent は、Mylex ディスクアレイシステムの情報を監視するにあたり Global Array Manager を必要とします。ESMPRO/ServerAgent により Mylex ディスクアレイシステムの情報を監視するには、必ず Global Array Manager をインストールしてください。

以下の手順でアップデートを行ってください。

1. CD-ROM ドライブに、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM をセットしてください。
2. [スタート] [ファイル名を指定して実行(R)] を選択してください。[ファイル名を指定して実行]ダイアログが開いたら、[名前(O)]に次のように入力して、[OK]ボタンを押してください（説明では CD-ROM が D ドライブであると仮定して説明します）。

D:¥JPN¥ESMSA¥setup.exe

3. アップデートプログラムが起動しますので、画面の指示に従って[次へ]ボタンを押してください。
4. アップデートが終了すると、システムの再起動を促すダイアログが表示されます。[終了]ボタンを押して setup.exe を終了してください。setup.exe の終了後、システムを再起動してください。
5. システムが再起動されたらアップデートは完了です。

第3章 Array Recovery Toolのアップデート

本章では、Array Recovery Tool のアップデート手順について説明します。

Array Recovery Tool アップデートは、GAM 3.04(使用 OS が Windows 2000)を使用する場合のみ必要です。
GAM2.20(使用 OS が Windows NT 4.0)を使用する場合は必要ありません。

GAM3.04を使用する場合、EXPRESSBUILDER のバージョンによりGAM 3.04の対応有無を判断します。下表を参照して、GAM 3.04 に未対応の EXPRESSBUILDER を使用する場合、手順に従いアップデートを行ってください。

| 使用するOS | EXPRESSBUILDER のバージョン | GAM 3.04 対応 |
|--------------|--|-------------------|
| Windows 2000 | Express5800/100 シリーズ 2.060 -N 以前 (注 1) | 未対応 (アップデートが必要です) |
| | Express5800/600 シリーズ 2.017 -S 以前 (注 1) | |
| | Express5800/100 シリーズ 2.061 -N 以降 (注 1) | 対応済 |
| | Express5800/600 シリーズ 2.018 -S 以降 (注 1) | |

なお、Array Recovery Tool は、NetWare では動作しないので注意してください。

3.1 Array Recovery Tool アップデート前の確認

Array Recovery Tool をアップデートする前に以下の点を確認してください。

- 管理者権限を持つユーザ(Administrator)でログオンしていること
- 「コントロールパネル」を終了していること
- Global Array Manager がインストールされていること
- Express5800/100 シリーズの EXPRESSBUILDER 2.060 -N (注 1)以前、または Express5800/600 シリーズの EXPRESSBUILDER 2.017 -S(注 1)以前の CD-ROM に収録されている Array Recovery Tool がインストールされている場合、Array Recovery Tool がアンインストールされていること。
Array Recovery Tool は上書きインストールはできません。GAM 3.04 対応の Array Recovery Tool をインストールするには、インストール済みの Array Recovery Tool を一旦アンインストールしてください。
- ESMPRO とのアラート通報連携機能を使用する場合、Express サーバに ESMPRO/ServerAgent Ver3.7、3.8 がインストールされていること

注1) :任意のアルファベットが入ります



ESMPRO/ServerManager、ServerAgent と Array Recovery Tool の通報連携機能を使用するには、Array Recovery Tool よりも先に ESMPRO/ServerAgent をインストールする必要があります。ESMPRO/ServerAgent をインストール後、Array Recovery Tool をインストールしてください。



Array Recovery Tool は、Mylex ディスクアレイシステムの自動復旧を行うにあたり、Global Array Manager を必要とします。必ず Global Array Manager をインストールしてください。

3.2 Array Recovery Tool のアップデート

Array Recovery Tool は、以下の手順でアップデート (アンインストール)、インストールを行ってください。

Array Recovery Tool のアンインストール

Array Recovery Tool を更新するには、古いバージョンを一旦アンインストールする必要があります。

Array Recovery Tool をアップデートする前に、古いバージョンの Array Recovery Tool をアンインストールしてください。

Array Recovery Tool のインストール

GAM 3.04 ディスクアレイコントローラ対応の Array Recovery Tool は、以下の手順でインストールしてください。

1. CD-ROM ドライブに、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM をセットしてください。
2. [スタート] [ファイル名を指定して実行(R)] を選択してください。[ファイル名を指定して実行]ダイアログが開いたら、[名前(Q)]に次のように入力して、[OK]ボタンを押してください (説明では CD-ROM が D ドライブであると仮定して説明します)。

D:¥JPN¥ART¥setup.exe

3. インストールプログラムが起動しますので、画面の指示に従って[次へ]ボタンを押してください。
アップデートが終了すると、システムの再起動を促すダイアログが表示されます。[終了]ボタンを押して setup.exe を終了してください。setup.exe の終了後、システムを再起動してください。
4. システムが再起動されたら、アップデートは完了です。

第4章 自動クリーンアップツールのインストール

自動クリーンアップツール(CCTool)とも呼びます)は、Mylex ディスクアレイコントローラに対して定期的にコンシステンシ(整合性)チェックを実施し、検出した不整合を修復します(コンシステンシチェック実行中は、システムの性能を低下させることがあります)。定期的にコンシステンシチェックを実施することで、ハードディスクが故障したとき、ディスクアレイのリビルドの失敗を予防することができます。

自動クリーンアップツールは、コンシステンシチェックをするための Windows NT や Windows 2000 上で動作するコマンドを提供します(以降、コンシステンシチェックコマンドと呼びます)。

定期的なコンシステンシチェックの自動実行は、Windows NT や Windows 2000 の標準機能である「AT コマンド」と「Schedule サービス」を組み合わせることでコンシステンシチェックコマンドを使用することにより実現します。

自動クリーンアップツールについては、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM の「JPN\CCTOOL」にある「readme.txt」をご覧ください。

4.1 インストールの前に

ここでは、自動クリーンアップツールをインストールする前に知っておいていただきたい事項について説明します。

なお、自動クリーンアップツールは本体装置に添付されている EXPRESSBUILDER のバージョンによって以下のように使い分けてください。

| 使用する OS | EXPRESSBUILDER のバージョン | インストール方法 |
|--------------------------------|--|--|
| Windows NT 4.0 Windows 2000 | Express5800/100 シリーズ 039 以前 (注 1) Express5800/600 シリーズ 010 以前 (注 1) | 本 ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM 媒体を使用し、後続の手順を参照しインストールしてください。 |
| | Express5800/100 シリーズ 2.040 -N 以降 (注 1) Express5800/600 シリーズ 2.011 -S 以降 (注 1) | EXPRESSBUILDER を使用しインストールしてください。インストールの手順は本体装置添付の ユーザーズガイドまたは EXPRESSBUILDER 内のオンラインドキュメントを参照してください。 |

注) : 任意のアルファベットがはいります。

4.1.1 動作環境

自動クリーンアップツールのセットアップに必要な環境は、次の通りです。

- ハードウェア
 - 本体
 - Mylex ディスクアレイシステムを構築している Express5800 シリーズ装置
 - メモリ
 - OS の動作に必要なメモリ + 1MB 以上
 - ハードディスクの空き容量
 - 1MB 以上
- ソフトウェア
 - Microsoft Windows NT Version 4.0 / Microsoft Windows 2000
 - GAM Server 2.20(Windows NT の場合) / GAM Server 3.04(Windows 2000 の場合)



GAM Server は、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM に収録されています。GAM Server のインストールは、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM の「JPN\DOC」にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager ユーザーズマニュアル」を参照してください。

4.2 セットアップ

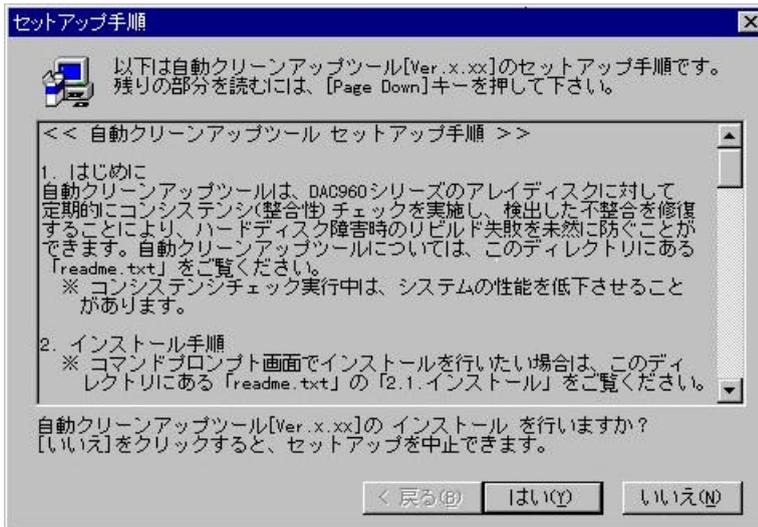
自動クリーンアップツールのインストール/ アンインストールの方法とインストール後の環境設定の方法について説明します。

4.2.1 インストール

次の手順にしたがって自動クリーンアップツールをインストールします。

1. 装置本体の電源をONにして、Windows 2000 または Windows NT 4.0 を起動する。
2. 本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM をドライブにセットする。
3. エクスプローラなどを使って、¥JPN¥CCTOOL」にある setup.exe を起動する。
[セットアップ手順]ダイアログボックスが表示されます。
4. [はい]ボタンをクリックする。

[インストール先ディレクトリの指定]ダイアログボックスが表示されます。



5. インストール先ディレクトリを指定して、[次へ]ボタンをクリックする。

[セットアップの完了]ダイアログボックスが表示されます。インストール先ディレクトリを変更する場合は、[参照]ボタンをクリックしてディレクトリを指定します。



インストール先ディレクトリを変更した場合は、後述の AT コマンドによるスケジュール登録時にも、ここで指

定したディレクトリを指定しなければなりません。

6. [終了] ボタンをクリックする。



以上で、自動クリーンアップツールのセットアップは終了です。引き続き次ページの「4.3.2 環境設定」を参照し設定してください。

4.2.2 環境設定

自動クリーンアップツールの環境設定は、schedule サービスの設定 / 起動を行ってからスケジュール登録を行います。なお、自動クリーンアップツールの環境設定は、以下の点に配慮して設定を行ってください。

- ディスクアレイコントローラやそれに接続するディスクの種類、チェック対象のシステムディスクのサイズ、システムの負荷状況によってコンシステンシチェックの処理時間が左右されます。システムで自動クリーンアップツールを運用する前にあらかじめ処理時間を測定し、業務に影響のないような時間にスケジュールするように環境設定を行ってください。
- コンシステンシチェック実行中は、システムの性能を低下させることがあります。業務に影響のないような時間にスケジュールするように環境設定を行ってください。
- 作成直後のシステムディスクやイニシャライズ (初期化) が完了していないシステムディスクにはコンシステンシチェックを行うことはできません。スケジュールされた起動時間前にイニシャライズを完了させておいてください。



システムディスクのイニシャライズ完了の有無は Global Array Manager(GAM)の「Administration」メニューの「Initialize Logical Drives...」をクリックして表示されるダイアログボックスで確認できます。

以下に環境設定について説明します。

- schedule サービスの設定/起動
OS によって操作が異なります。それぞれの OS の設定方法にしたがって作業を行ってください。



サービスの設定を行うためには、Administrators ローカルグループのメンバーであるユーザーアカウントでログオンする必要があります。
Windows 2000 では「コンピュータの管理」にある「サービスとアプリケーション」の「サービス」で表示されるサービスの一覧から「Task Scheduler」を選択し、このプロパティの「全般」タブで以下の設定を行います。

スタートアップの種類 :自動、 サービスの状態 :開始

Windows NT 4.0 の場合は コントロールパネルの[サービス]のサービスの一覧から「Schedule」(または Task Scheduler)について「スタートアップ」を自動的に設定して、このサービスを開始させます。

- 自動クリーンアップツールのスケジュール登録

Windows NT/Windows 2000 のコマンドプロンプト画面から AT コマンドを入力して、自動クリーンアップツールの自動起動のスケジュールを登録してください。



AT コマンドを使用する際は、schedule サービスを開始してください。

AT コマンドを使用するためには、Administrators ローカルグループのメンバであるユーザーアカウントでログオンする必要があります。

AT コマンドの詳細については、Windows 2000 または Windows NT のオンラインヘルプなどを参照してください。

たとえば、毎週日曜日と毎月 1日の 23:00 に自動クリーンアップツールを自動実行する場合は、次のようにコマンドを入力します(自動クリーンアップツールの実行結果ログは、インストール先ディレクトリの cccon.log へ毎回追加されます)。

```
>at 23:00 /every:su,1 cccon.bat
```

4.2.1 インストール」の手順 5 でインストール先を「c:\cctool」と指定したときは次のようになります。

```
>at 23:00 /every:su,1 c:\cctool\cccon.bat
```

- ・「23:00」 : 時刻。24 時間形式(00:00 ~ 23:59)
- ・「su」 : 曜日。曜日頭文字(M(月曜日)、T(火曜日)、W(水曜日)、Th(木曜日)、F(金曜日)、S(土曜日)、Su(日曜日))。カンマで区切り複数指定可能。
- ・「1」 : 日付。日付数値(1 ~ 31)。カンマで区切り複数指定可能。

4.3 アンインストール

次の手順にしたがって自動クリーンアップツールをアンインストールします。

4.3.1 自動クリーンアップツールのファイル削除

自動クリーンアップツールのインストール先ディレクトリにある次のファイルを削除してください。

- ・ CCCON.EXE
- ・ CCCON.BAT
- ・ CCCON.LOG



ファイル「CCCON.LOG」は、自動クリーンアップツール(スケジュール登録したコマンド「CCCON.BAT」)が実行される際に生成されます。必要に応じて削除してください。

4.3.2 環境設定の解除

自動クリーンアップツールのために登録したスケジュールを削除してください。また、必要に応じて schedule サービスの設定を解除してください。

- スケジュールの削除

AT コマンドの照会機能により、登録した日時やコマンドの内容を確認して、自動クリーンアップツールのスケジュールを削除してください。

```
(照会[一括]) at
( " [個別]) at 0          0」:タスクID
(削除[一括]) at /delete
( " [個別]) at 0 /delete 0」:タスクID
```

- **schedule サービスの設定解除**

必要に応じて、schedule サービスを停止し、手動でサービスの開始を行って設定に戻してください。



サービスの設定を行うためには、Administrators ローカルグループのメンバーであるユーザーアカウントでログオンする必要があります。

Windows 2000 では「コンピュータの管理」にある「サービスとアプリケーション」の「サービス」で表示されるサービスの一覧から「Task Scheduler」を選択し、このプロパティの「全般」タブで以下の設定を行います。

スタートアップの種類: 手動、 サービスの状態: 停止

Windows NT 4.0 の場合は コントロールパネルの[サービス]のサービスの一覧から「Schedule」(または Task Scheduler)について「スタートアップ」を手動に設定して、このサービスを停止させます。

4.4 運用と保守

自動クリーンアップツールの運用および保守の際に必要な確認や手順について説明します。

4.4.1 運用手順

運用するときには、次の点について確認してください。

- **schedule サービスの起動確認**

システムのイベントログから schedule サービスが起動 (開始) エラーになっていないことを確認します。

- **スケジュールの起動確認**

システムのイベントログからスケジュール (自動クリーンアップツール) の起動 (開始) エラーになっていないことを確認します。

4.4.2 保守手順

次のような保守をするときは、それぞれに説明している方法に従って操作してください。

- **時刻の同期**

NET TIME %remote /SET /Y コマンドにより、リモートマシンの時刻をローカルマシンの時刻に合わせます。

AT %remote コマンドにより、リモートマシンのスケジュール時刻を同期させます。

- **自動クリーンアップツールのログ収集および確認**

ファイル転送などにより、リモートマシンの自動クリーンアップツールのインストール先にあるログファイル「cccon.log」(コンシステンシチェックの実施結果が出力されたファイル)を収集し、内容 (結果)を確認します。

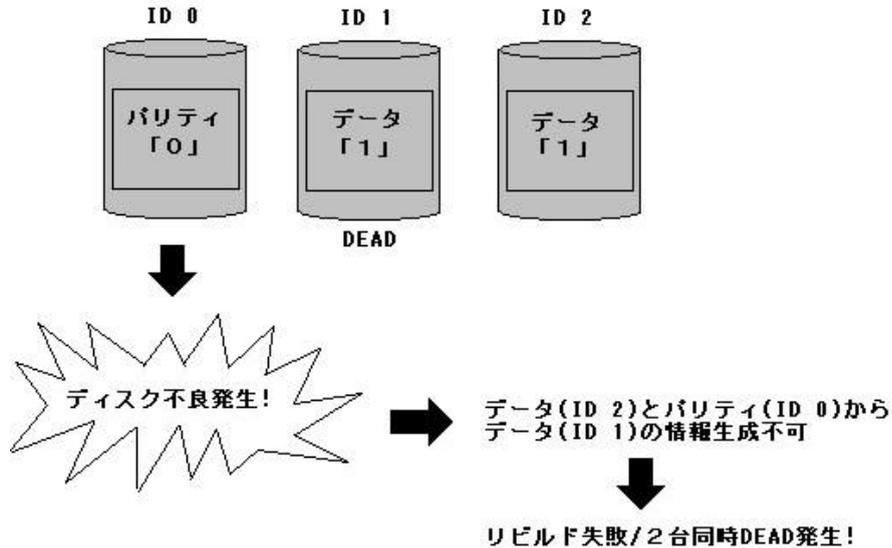
自動クリーンアップツールのログについては、本ディスクアレイコントローラに添付の CD-ROM の「%JPN%CCCTOOL」にある「readme.txt」をご覧ください。

4.5 解説

自動クリーンアップについて補足的なことからについて解説します。

- **リビルドが失敗する要因について**

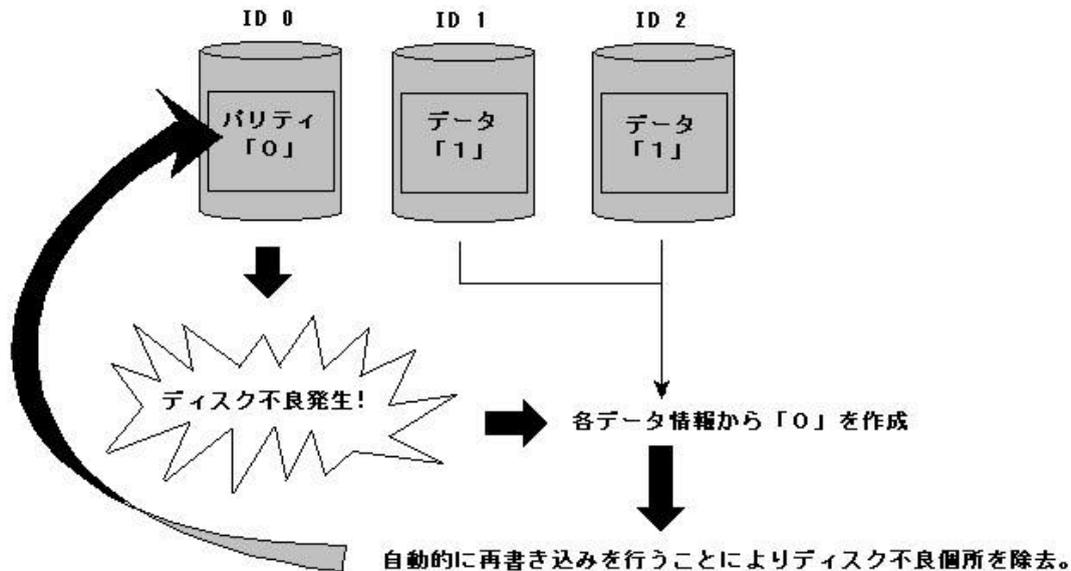
ディスクのアクセス頻度が低い部分(パリティ部/未使用領域部)で、ディスク不良が蓄積されていると、リビルド時にパリティからデータを再作成できなくなるため、リビルドが失敗します。



RAID5 ではデータリード時、パリティ部へのアクセスがないため、この部分のアクセス頻度が低くなります。リビルドはディスク全体が対象となるため、未使用領域についてもリビルドが行われます。

- **自動クリーンアップツールを導入すると**

ディスクアレイを構成しているハードディスク全体の「読み取りテスト」を行い、ディスク不良(リードエラー)を検出すると、自動的に再書き込みを行います。この機能により不良部分を復旧し、ディスク不良の蓄積によるリビルドの失敗、およびハードディスクが2台同時にDEAD状態になる危険性を低くします。



第5章 注意事項

N8503-43/44/49 ディスクアレイコントローラ 管理ソフトウェアを使用する上での注意事項です。インストール作業を行う前に必ずよくお読みください。

PCI Hot Plugについて

該当 OS : Windows 2000、Windows NT 4.0

PCI Hot Plug によるPCIカードの活線挿抜は行えません。PCIカードを交換する場合は、装置の電源を切ってから行ってください。

電源制御について

該当 OS : Windows 2000

本ソフトウェアをご使用の場合、オペレーティングシステムの電源制御機能(休止状態やスタンバイ)は使用できません。Windows のシャットダウンメニューやスリープボタンによる電源制御を実施しないでください。

ダイナミックディスクに対するExpand Arrayについて

該当 OS : Windows 2000

Windows 2000 のダイナミックディスクが存在するバックには、Expand Array を実施しないでください。

Windows 2000 のダイナミックディスクが存在するバックに Expand Array を実施すると、ダイナミックディスクがオフライン状態になるなどの不具合が発生する場合があります。

ダイナミックディスクとベーシックディスクは、Windows 2000 のコントロールパネルで、[管理ツール]を起動し、[コンピュータの管理]を開き、[ディスクの管理]を選択すると参照できます。

インストール作業中のESMPRO/ServerManager、ServerAgentの動作について

該当 OS : Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows Me/98/95

N8503-43/44/49 ディスクアレイコントローラ管理ソフトウェアのインストール作業中、次の点に注意してください。

- ESMPRO/ServerManager で監視している Express サーバで上記のインストールを行う場合、ESMPRO/ServerManager の「データビューア」は必ず終了してください。GAM 3.04 ディスクアレイコントローラに対応していない「データビューア」を起動したままインストール作業を実施した場合、アプリケーションエラーなどの問題が発生する可能性があります。
「データビューア」を終了し忘れてこのような問題が発生した場合は、「第 2 章 ESMPRO/ServerManager、ServerAgent のアップデート」を参照して、ESMPRO/ServerManager のアップデートを実施してください。
- Windows 2000、Windows NT 4.0 において、N8503-43/44/49 ディスクアレイコントローラ管理ソフトウェアのインストール中、次のような現象が発生する可能性があります。このような現象は、インストール途中の一時的な問題です。すべてのインストール作業が完了した後、ESM Mylex Service が正常に起動されていれば問題はありません。
 - システムのイベントログに ESMPRO/ServerAgent Mylex 監視機能のエラーが登録される。
イベントソース ESM Mylex Service
 - ESM Mylex Service が停止する